

UTグループ

2010年3月期第2四半期決算

説明会資料

UTホールディングス株式会社  
代表取締役社長兼CEO 若山 陽一  
2009年11月16日

## 目 次

### ■ 2010年3月期 第2四半期決算

#### Section 1 UTグループ概要

#### Section 2 連結決算報告

#### Section 3 連結業績予想の修正

#### Section 4 各事業の報告

#### 参考資料 Growth 2012 : 新中期経営計画

2010年3月期第2四半期決算

Section 1

# UTグループ概要

## 会社案内

**商号：** UTホールディングス株式会社

**設立：** 2007年4月2日

**資本金：** 20億円

**上場証券取引所：** ジャスダック証券取引所（証券コード：2146）

**役員構成：** 代表取締役社長兼CEO 若山 陽一  
取締役 加藤 慎一郎 取締役 島田 恭介  
取締役 猪俣 慎二  
常勤監査役 大籠 清  
社外監査役 本郷 孔洋 社外監査役 水上 博和

**所在地：** 東京都品川区東五反田1-11-15 電波ビル4階

**事業領域：** アウトソーシング事業・製造装置事業・設計開発事業

**主要顧客：** ・パナソニックグループ ・シャープグループ  
・ソニーグループ ・ルネサスグループ  
・ロームグループ ・セイコーエプソングループ  
・東芝グループ ・旭化成グループ  
・NECグループ

### ■ 本社移転

2009年8月17日より本  
社を移転いたしました。

## UTグループの事業

### ■ アウトソーシング事業

半導体・FPD分野の最先端のものづくり現場で培ったノウハウを活かし、製造業務を一括して請け負っています。各工程の製造オペレーションから、装置メンテナンスや保全業務の一括受託まで行い、各工程の生産能力を把握し、それに基づいた作業改善を提案するなど付加価値の高いサービスを提供しています。

### ■ 製造装置事業

半導体・FPDの製造ラインの一括移設サービスを行っています。国内外の工場から装置を一括して移設するサービスを中心に、装置立上げ、リファービッシュ（改修）などUTグループしか提案できない高度な技術サービスを提供しています。

### ■ 設計開発事業

LSIなど半導体デバイスの設計・デザイン請負や設計エンジニアの派遣のほか、組込みソフトウェアの受託開発を行っています。半導体・FPD生産に関する幅広い経験とノウハウを活かして、製造プロセス及びそのコストを視野に入れた設計を実践しています。

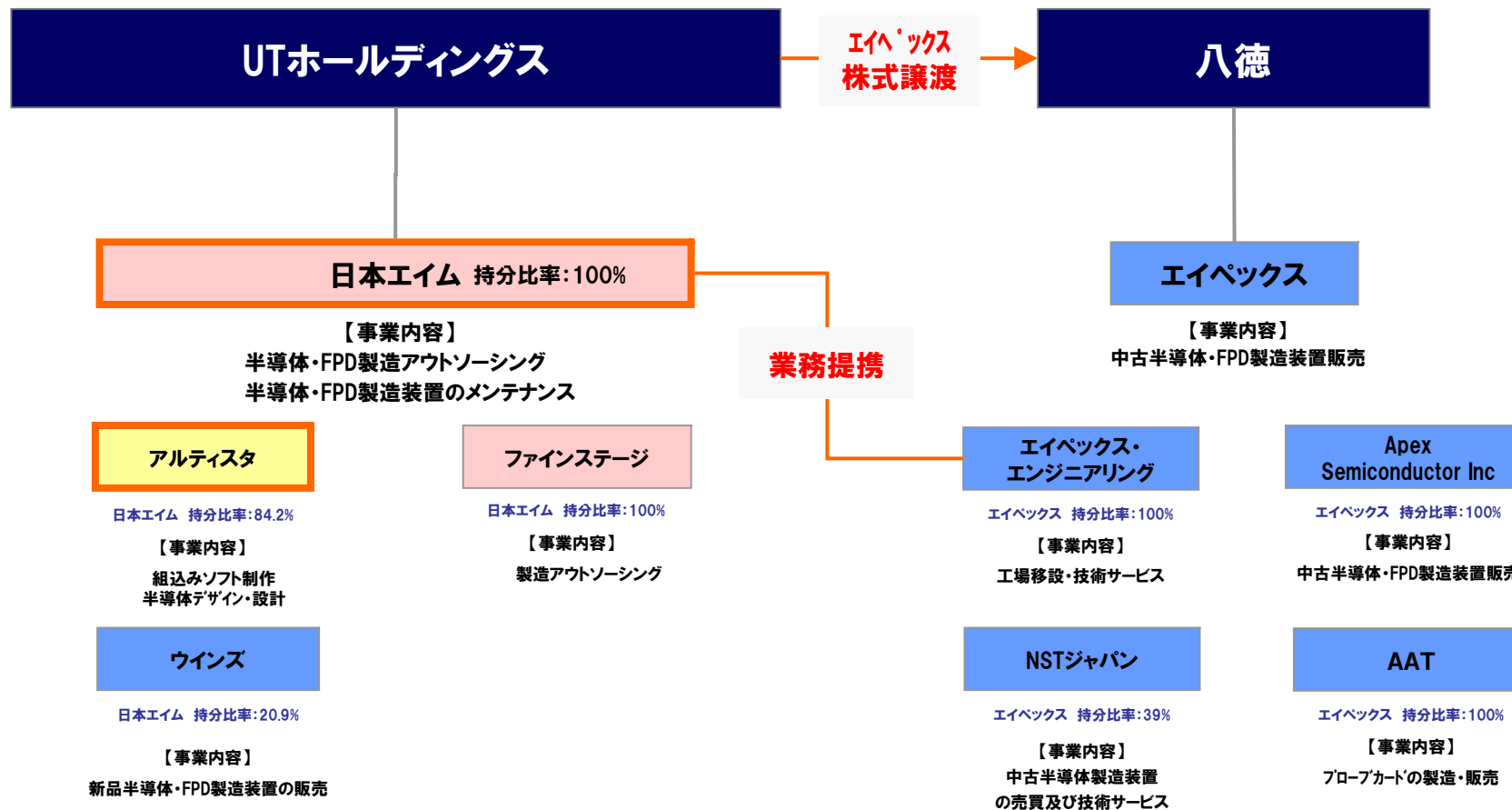
UTグループ構成図

【凡例】

アウトソーシング事業

製造装置事業

設計開発事業



2010年3月期第2四半期決算

Section 2

# 連結決算報告

## 2010年3月期第2四半期 連結決算サマリー

2010年3月期第2四半期 連結決算のポイント	
UTグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>エイペックス株式譲渡</b> : 業績変動リスクの切り離し（売却価額：2,300百万円） : 移設ビジネスは業務提携により継続</li> <li>・ <b>新中期経営計画の進展</b> : 日本エイム在籍が4,000名体制に向け順調に増加 : インハウスソリューションがスタート（10月開始）</li> </ul>
アウトソーシング事業 （日本エイム）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2四半期より、トップライン（売上高）を伸ばす戦略にギアチェンジ → <b>売上高・営業利益ともに、計画を上回る水準で推移</b> 在籍数推移 7月 3,219名/8月 3,295名/9月 3,453名/10月 3,605名</li> </ul>
製造装置事業 （エイペックス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メーカーの設備投資は低調な水準で推移し、大型の移設案件が表面化せず → 半導体・FPD業界の再編が進み、<b>移設見込み案件は増加傾向</b></li> </ul>
財務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>エイペックス株式譲渡</b> : <b>連結対象範囲となるが、エイペックスの業績は原則連結当期純利益・連結株主資本に影響なし</b> : <b>UTグループの借入金を実質的に半分に圧縮</b> : <b>のれん4,441百万円を一括償却</b></li> </ul>

**中間期の連結業績：セグメント別の前期比較**

アウトソーシング事業（日本エイム）が、計画を上回る水準で順調に推移

（単位：百万円）

	FY2010.3		前年比	FY2009.3	
	上半期（4～9月）	構成比		上半期（4～9月）	構成比
<b>売上高</b>	8,021	100.0%	31.7%	25,342	100.0%
アウトソーシング事業（日本エイム）	7,086	-	54.3%	13,040	-
製造装置事業（エイベックス）	582	-	9.1%	6,408	-
設計開発事業（アルティスタ）	352	-	62.7%	561	-
<b>売上総利益</b>	1,330	16.6%	28.0%	4,757	18.8%
<b>販売費及び一般管理費</b>	1,188	14.8%	46.1%	2,577	10.2%
<b>営業利益</b>	141	1.8%	6.5%	2,180	8.6%
アウトソーシング事業（日本エイム）	596	-	44.9%	1,329	-
製造装置事業（エイベックス）	△365	-	△62.4%	586	-
設計開発事業（アルティスタ）	13	-	22.2%	60	-
<b>経常利益</b>	19	0.2%	1.3%	1,466	5.8%
<b>当期純利益</b>	1,729	21.6%	△36.4%	△4,747	△18.7%

※ FY2009.3の連結業績は、ミクロ技研の業績が含まれた数値です。

**第2四半期の連結業績：セグメント別の前期比較**

エイペックス株式譲渡に伴い、のれん4,441百万円を一括償却

(単位：百万円)

	FY2010.3		前年比	FY2009.3	
	2Q	構成比		2Q	構成比
<b>売上高</b>	<b>4,117</b>	<b>100.0%</b>	<b>35.4%</b>	<b>11,622</b>	<b>100.0%</b>
アウトソーシング事業(日本エイム)	3,717	-	57.0%	6,521	-
製造装置事業(エイペックス)	226	-	8.0%	2,833	-
設計開発事業(アルティスタ)	174	-	61.9%	281	-
<b>売上総利益</b>	<b>677</b>	<b>16.5%</b>	<b>24.3%</b>	<b>2,788</b>	<b>24.0%</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>578</b>	<b>14.1%</b>	<b>41.7%</b>	<b>1,389</b>	<b>12.0%</b>
<b>営業利益</b>	<b>99</b>	<b>2.4%</b>	<b>7.1%</b>	<b>1,398</b>	<b>12.0%</b>
アウトソーシング事業(日本エイム)	343	-	47.5%	723	-
製造装置事業(エイペックス)	△221	-	-	572	-
設計開発事業(アルティスタ)	△14	-	-	32	-
<b>経常利益</b>	<b>18</b>	<b>0.5%</b>	<b>1.8%</b>	<b>1,057</b>	<b>9.1%</b>
<b>当期純利益</b>	<b>△4,293</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>△183</b>	<b>-</b>

※ FY2009.3の連結業績は、マイクロ技研の業績が含まれた数値です。

**エイペックス株式譲渡の概要**
**■ エイペックス概要**

- ・ 事業内容：中古半導体製造装置の売買および立上げ再生等の技術サービス
- ・ 2007年4月2日に日本エイムとエイペックスの株式移転により当社を設立

	内 容
株式譲渡日	2009年11月13日
売却株式数	44,327株（発行済株式総数比 100%）
売却金額	2,300百万円 ※UTから八徳に対し、エイペックス株式の購入資金を貸し付け 貸付金額：2,250百万円
譲渡先	株式会社八徳 ※ 元当社取締役 水谷智氏が代表のSPC（特別目的会社） 同氏は11月12日付で当社取締役を退任
株式譲渡理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アウトソーシング事業から見たシナジー効果の希薄化</li> <li>・ 業績変動リスクの切り離し（リスクの限定）</li> <li>・ 財務構造の安定化</li> </ul>
業績への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エイペックスの全株式を八徳に売却することに伴い、のれん4,441百万円を一括償却し、特別損失を計上</li> <li>・ エイペックスは、引き続き、連結範囲となるが、連結当期純利益・連結株主資本には、原則としてエイペックスの業績の影響はない。</li> </ul>

**エイペックス・エンジニアリングとの業務提携**

	内 容
<b>業務提携先</b>	株式会社エイペックス・エンジニアリング ※ エイペックス100%子会社
<b>設立日</b>	2009年11月2日
<b>代表者</b>	代表取締役社長 洪 全甲
<b>所在地</b>	京都府亀岡市
<b>事業内容</b>	半導体・FPD・太陽電池の製造ライン一括移設等の関連技術サービス
<b>業務提携日</b>	2009年11月13日
<b>業務提携内容</b>	エイペックス・エンジニアリングが提供する半導体関連装置の製造ライン一括移設サービス及び技術サービスを日本エイムが保有する半導体関連の顧客網を活かし、日本エイムが販売を行う

**貸借対照表の推移**
**エイペックス株式の譲渡により純資産・株主資本が変化**

(単位：百万円)

	2009年6月末	2009年9月末	エイペックス譲渡後		
<b>流動資産</b>	10,078	9,835	9,835	日本エイムの事業収益による現金の増加及び法人税の還付	
現金及び預金	2,684	3,221	3,221		
売掛金	2,688	2,609	2,609		エイペックスののれんを一括償却
商品(在庫)	3,388	3,272	3,272		
<b>固定資産</b>	9,833	5,624	7,692		
のれん	4,504	0	0	エイペックスののれんを一括償却したため減少	
投資有価証券	74	70	70		
<b>総資産</b>	19,923	15,469	17,537		
<b>流動負債</b>	12,651	12,435	12,435		
短期借入金	10,614	10,416	10,416	エイペックスの少数株主持分1,727百万円が増加	
<b>固定負債</b>	163	222	222		
社債	0	0	0		
<b>純資産</b>	7,109	2,812	4,880	エイペックス株式の譲渡益が第3四半期に339百万円計上	
少数株主持分	33	33	1,760		
株主資本	7,041	2,750	3,089		

**エイペックス株式譲渡に伴う新中期経営計画の見直し**

(単位：億円)

セグメント	分野／サービス	FY2010.3		FY2011.3		FY2012.3	
<b>連結売上高</b>		<b>180.3</b>	100.0%	<b>224.4</b>	100.0%	<b>293.1</b>	100.0%
アウトソーシング	半導体分野	138.5	-	156.7	-	166.4	-
	成長4分野	6.5	-	29.1	-	61.0	-
	設計開発分野	7.1	-	8.0	-	9.3	-
ソリューション	インハウスソリューション	6.6	-	28.6	-	51.4	-
	アセットライトソリューション	0.5	-	2.0	-	5.0	-
エイペックス見込み		21.0	-				
<b>連結営業利益</b>		<b>8.0</b>	4.5%	<b>20.3</b>	9.0%	<b>30.2</b>	10.3%
アウトソーシング	半導体分野	10.4	-	14.2	-	16.1	-
	成長4分野	0.2	-	1.5	-	4.0	-
	設計開発分野	0.5	-	0.7	-	1.0	-
ソリューション	インハウスソリューション	0.3	-	1.9	-	4.1	-
	アセットライトソリューション	0.5	-	2.0	-	5.0	-
エイペックス見込み		△2.7	-				
全社または消去		△1.3	-				
<b>連結経常利益</b>		<b>5.5</b>	3.0%	<b>19.1</b>	8.5%	<b>29.0</b>	9.9%
<b>連結当期純利益</b>		<b>26.0</b>	14.4%	<b>16.3</b>	7.3%	<b>24.8</b>	8.5%

※ 連結当期純利益は、繰越欠損金による当期控除額を当社の想定により算出しております。

FY2011.3以降は、エイペックスに係る業績が連結当期純利益に原則として影響ないことから、エイペックスを計画値に含んでおりません。

2010年3月期第2四半期決算

Section 3

# 連結業績予想の修正

**連結業績予想の実績差異 : 第2四半期連結累計期間**
**■ 全社の連結業績予想の実績差異**

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
		百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
第2四半期 連結累計期間	前回発表	7,140	290	145	5,030	23,460.93
	今回実績	8,021	141	19	1,729	8,138.81
	差異	881	△149	△126	△3,301	

※ 前回の連結業績予想の修正 2009年6月19日

**■ 会社別の計画値と実績値の内訳**

(単位：百万円)

	売上高		営業利益	
	当初計画値	実績値	当初計画値	実績値
	百万円	百万円	百万円	百万円
アウトソーシング事業 (日本エイム)	5,340	7,086	290	596
製造装置事業 (エイペックス)	1,500	582	125	△365
設計開発事業 (アルティスタ)	300	352	7	13

**連結業績予想の修正 : 通期**

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
		百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	前回発表	16,400	750	450	5,230	24,393.77
	今回発表	16,400	750	450	2,500	11,764.87

※ 前回の連結業績予想の修正 2009年6月19日

エイペックスの全株式を八徳に売却することに伴い、のれん4,441百万円を一括償却し、特別損失を計上したため、当期純利益の連結業績予想を修正

2010年3月期第2四半期決算

Section 4

# 各事業の報告



## アウトソーシング事業（日本エイム）：派遣法改正について

### ■ 労働者派遣法改正の動き

- ・ 民主党の政権交代により、労働者派遣法改正の動きが活発化
- ・ 労働者派遣法改正について、労働政策審議会で議論され、年内に答申の見込み
- ・ 年明けの通常国会に労働者派遣法の改正案が上程される見込み

### ■ 労働者派遣法改正の方向性

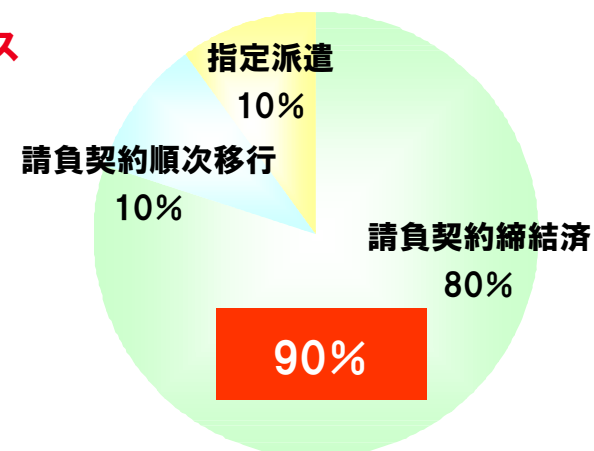
- ・ 製造派遣の改正について考えられる方向性
  - ① 全面禁止 ② 部分的改定（常用雇用のみ可、派遣期間を1年間に短縮等）
  - ③ 製造派遣の改正なし（現状のまま、派遣期間3年）

### ■ 当社の対応状況

#### 請負によるサービス提供が基本スタンス

顧客ニーズに応じ、請負への移行は、順調に進捗。また、もともと常用雇用の割合が高く、製造派遣について何らかの規制が課せられたとしても影響は少ない。

【2009年11月の請負化の状況】



**第2四半期のアウトソーシング事業（日本エイム）の業績①**

**売上総利益率19.7%・営業利益率9.2%に回復 販管費率は10.5%と低水準で推移**

（単位：百万円）

	FY2009.3			FY2010.3	FY2010.3	前年比
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	6,521	5,666	3,704	3,369	3,717	57.0%
売上総利益	1,282	975	487	590	732	57.1%
売上総利益率	19.7%	17.2%	13.1%	17.5%	19.7%	-
販売費及び一般管理費	559	455	391	337	390	69.8%
販管費率	8.6%	8.0%	10.6%	10.0%	10.5%	-
営業利益	723	520	95	253	344	47.5%
営業利益率	11.5%	9.2%	2.6%	7.5%	9.2%	-

**【FY2010.3 2Qのポイント】**

- 売上高は、新規営業活動・既存事業所のシェアアップにより、在籍の増加に比例して順調に推移
- 第1四半期に請負職場などの原価改善活動に取り組んだ結果、売上総利益率が19.7%と通常水準に回復
- 厳格なコストコントロールを継続し、営業利益率が9.2%の高水準に回復

**【FY2010.3 3Q以降のポイント】**

- 10月よりインハウスソリューション（工場の一括請負）が230名体制でスタート
- 在籍4,000名体制の構築へ向け、引き続き、請負化・成長分野・インハウスソリューションの営業活動を強化

**第2四半期のアウトソーシング事業（日本エイム）の業績②**
**【新中期経営計画の進捗】**
**■ 在籍推移**

在籍4,000名体制の構築へ向け、新規営業活動・既存事業所のシェアアップにより在籍数は順調に増加

2009年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
在籍数	3,158	3,079	3,123	3,219	3,295	3,453	3,605

→ 5月の底から10月までに、526名（17%）の回復

**■ 成長分野**

- ・ 太陽電池の製造工程及び開発工程を受注 【計50名規模】
- ・ ディスプレイ・2次電池・LED分野についても、アウトソーシングニーズが徐々に顕在化してきており、さらなる受注活動を推進

**■ インハウスソリューション（工場の一括請負）**

- ・ 10月よりのインハウスソリューションがスタート 【230名規模】
- ・ 半導体工場の集約や再編の機運が高くなる中で、インハウスソリューションの引き合いも増加

**第2四半期の製造装置事業（エイペックス）の業績**

**新規の大型移設案件等の進捗が遅れているため、売上高が減少**

（単位：百万円）

	FY2009.3			FY2010.3	FY2010.3	前年比
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	2,833	796	962	356	227	8.0%
売上総利益	987	△31	94	9	△77	-
売上総利益率	34.8%	-	9.8%	2.5%	-	-
販売費及び一般管理費	416	303	214	154	143	34.5%
販管費率	14.7%	29.6%	22.2%	43.2%	63.2%	-
営業利益	572	△247	△207	△144	△221	-
営業利益率	20.2%	-	-	-	-	-

**【FY2010.3 2Qのポイント】**

- 新規の大型移設案件等の進捗が遅れているため、売上高が減少
- 販売管理費の削減活動を継続し、低水準で推移

**【FY2010.3 3Q以降のポイント】**

- 下半期にエルピーダの受注残を計上予定
- 移設業務は、エイペックス・エンジニアリングが担当。装置販売で競合していた企業からも技術サービスの受注が可能となる

**第 2 四半期の設計開発事業（アルティスタ）の業績**
**設計・開発投資の低迷が続く中、売上高は横ばい**

（単位：百万円）

	FY2009.3			FY2010.3	FY2010.3	前年比
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	281	258	203	178	174	61.9%
売上総利益	63	62	28	53	22	34.3%
売上総利益率	22.4%	24.0%	13.8%	29.7%	12.4%	-
販売費及び一般管理費	31	27	29	25	36	117.2%
販管費率	11.0%	10.5%	14.3%	14.0%	20.9%	-
営業利益	32	34	△1	28	△15	-
営業利益率	11.4%	13.2%	-	15.7%	-	-

**【FY2010.3 2Qのポイント】**

- 主要顧客の稼動は改善傾向にある
- 事業計画どおりに推移しており、2Qの数字は、賞与支給に伴う、一過性のもの

**【FY2010.3 3Q以降のポイント】**

- 引き続き、新規案件の開拓を推進し、稼働率の向上に結びつける
- アウトソーシングの営業活動と平行して、地方自治体と連携したソフトウェア開発の教育研修事業の推進も実施していく

Growth 2012

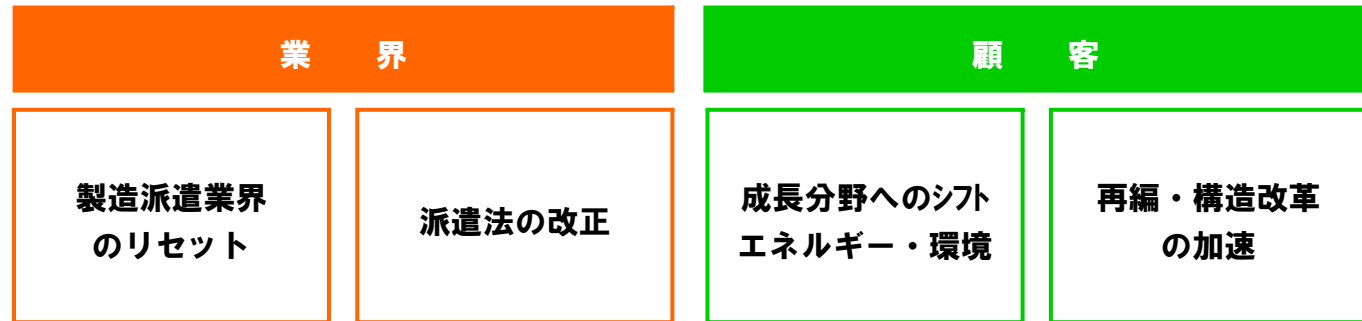
新中期経営計画(2010年3月期～2012年3月期)

Section 1

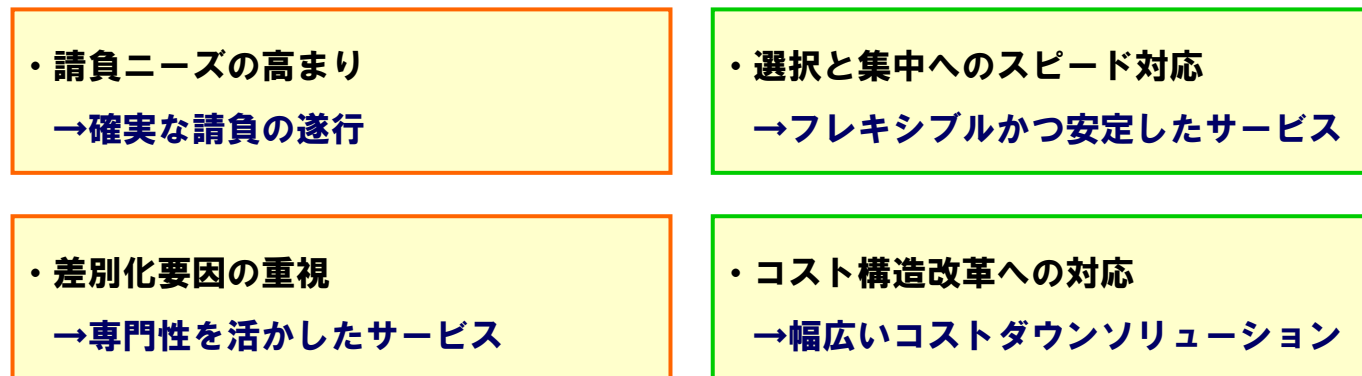
# 新中期経営計画の概要

## 新中期経営計画策定の背景

### ■当社を取り巻く環境



### ■顧客ニーズの変化



## 新中期経営計画の概要

### ■計画期間

2010年3月期～2012年3月期

### ■新中期経営計画の方針

「半導体に特化した製造派遣会社」から顧客の構造変化に対応した「コストダウンソリューションを提供」する企業へ

### ■新中期経営計画のポイント

【戦略1：請負ノウハウと専門性の活用による成長分野のシェア拡大】

① 請負化によるシェア拡大  
【半導体分野】

② 成長市場4分野へのセールス強化  
【ディスプレイ・LED・二次電池・太陽電池分野】

【戦略2：幅広いコストダウンソリューションの提供】

③ 工場の一括請負  
【インハウスソリューション】

④ 海外移設・技術サービスの拡充  
【アセットライトソリューション】

幅広いコストダウンソリューションの提供

↑  
コストダウンソリューション



→ コストダウンニーズ →

**新中期経営計画の数値計画 P/L**

(単位：億円)

セグメント	分野／サービス	FY2010.3		FY2011.3		FY2012.3	
<b>連結売上高</b>		<b>180.3</b>	100.0%	<b>224.4</b>	100.0%	<b>293.1</b>	100.0%
アウトソーシング	半導体分野	138.5	-	156.7	-	166.4	-
	成長4分野	6.5	-	29.1	-	61.0	-
	設計開発分野	7.1	-	8.0	-	9.3	-
ソリューション	インハウスソリューション	6.6	-	28.6	-	51.4	-
	アセットライトソリューション	0.5	-	2.0	-	5.0	-
エイベックス見込み		21.0	-				
<b>連結営業利益</b>		<b>8.0</b>	4.5%	<b>20.3</b>	9.0%	<b>30.2</b>	10.3%
アウトソーシング	半導体分野	10.4	-	14.2	-	16.1	-
	成長4分野	0.2	-	1.5	-	4.0	-
	設計開発分野	0.5	-	0.7	-	1.0	-
ソリューション	インハウスソリューション	0.3	-	1.9	-	4.1	-
	アセットライトソリューション	0.5	-	2.0	-	5.0	-
エイベックス見込み		△2.7	-				
全社または消去		△1.3	-				
<b>連結経常利益</b>		<b>5.5</b>	3.0%	<b>19.1</b>	8.5%	<b>29.0</b>	9.9%
<b>連結当期純利益</b>		<b>26.0</b>	14.4%	<b>16.3</b>	7.3%	<b>24.8</b>	8.5%

※ 連結当期純利益は、繰越欠損金による当期控除額を当社の想定により算出しております。

FY2011.3以降は、エイベックスに係る業績が連結当期純利益に原則として影響ないことから、エイベックスを計画値に含んでおりません。

Growth 2012

新中期経営計画(2010年3月期～2012年3月期)

Section 2

# 個別戦略について

① 請負化によるシェア拡大【半導体分野】

■ 半導体分野におけるアウトソーシング市場の状況

・ 市場規模はゆるやかに回復

(2007年を100とすると、2009年は61、2010年は65、2011年は71まで回復)

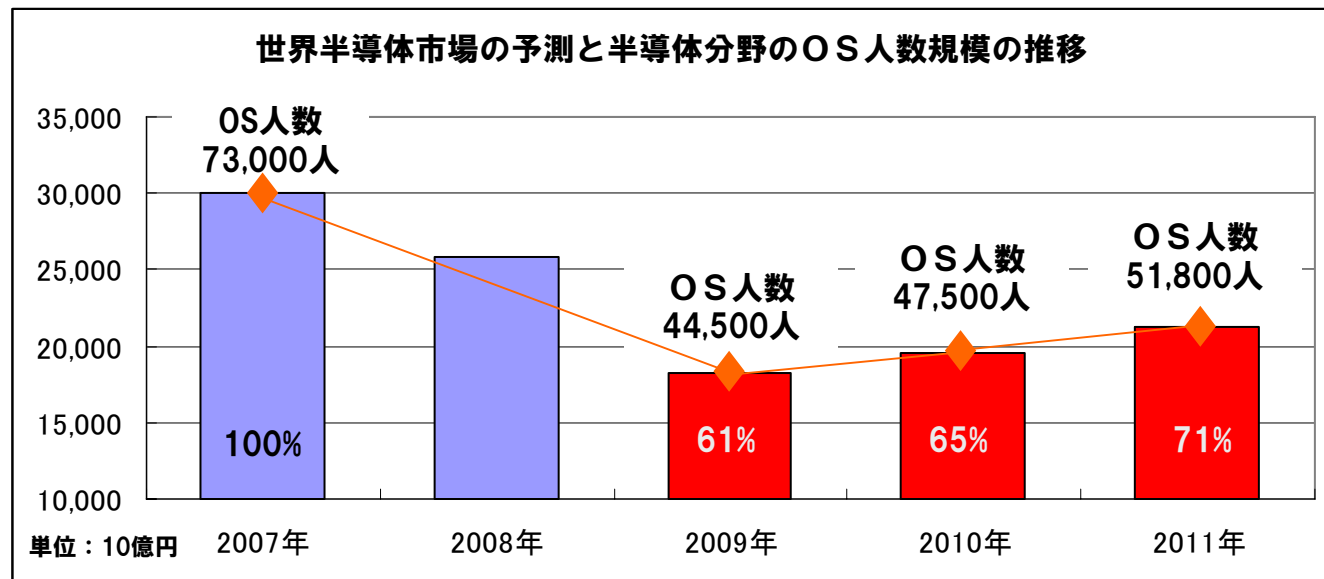
・ 競争が約半分に減少し、1社当たりのパイは増加

(1工場あたりのOS業者数が、平均6社から平均3社に減少 ※2009/04当社調べ)



請負ノウハウと専門性による差別化の推進

重点5企業グループごとに担当役員を配置。請負ノウハウと専門人材を活用し、顧客企業系列の方針・ニーズにスピード対応する。



※世界半導体市場の予測  
WSTS資料より

## ② 成長4分野へのセールス強化【ディスプレイ・LED・二次電池・太陽電池分野】

## ■ 事業領域の拡大

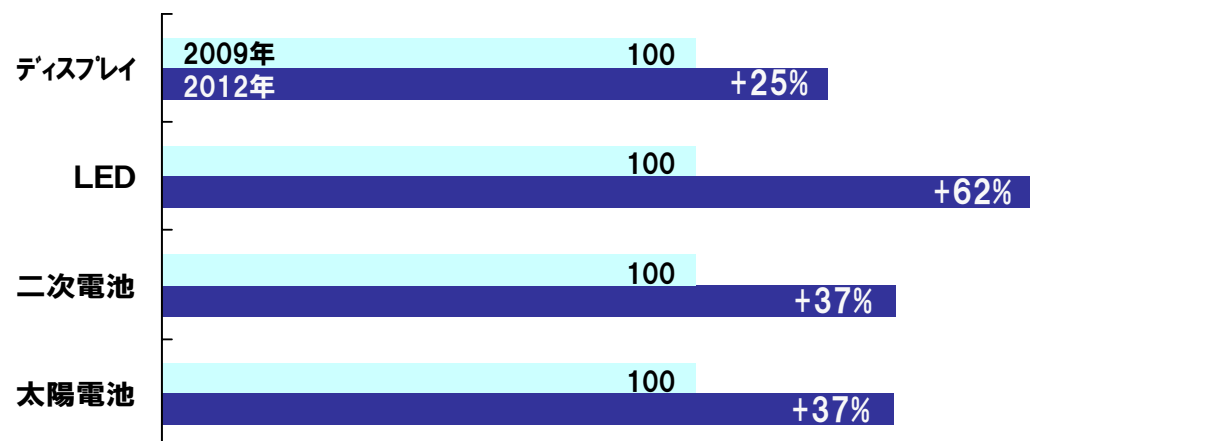
：半導体に加え、半導体の専門ノウハウを活用できる**成長市場4分野**  
**（ディスプレイ・LED・二次電池・太陽電池）の市場にウイングを拡大**

## ■ 製品分野ごとにセールス強化

：成長市場の分野ごとに担当役員をそれぞれ配置し、個別顧客ニーズに  
 対するスピードを強化

## 【製品分野の市場成長率】

- 2009年の市場規模を100とした場合の伸び率

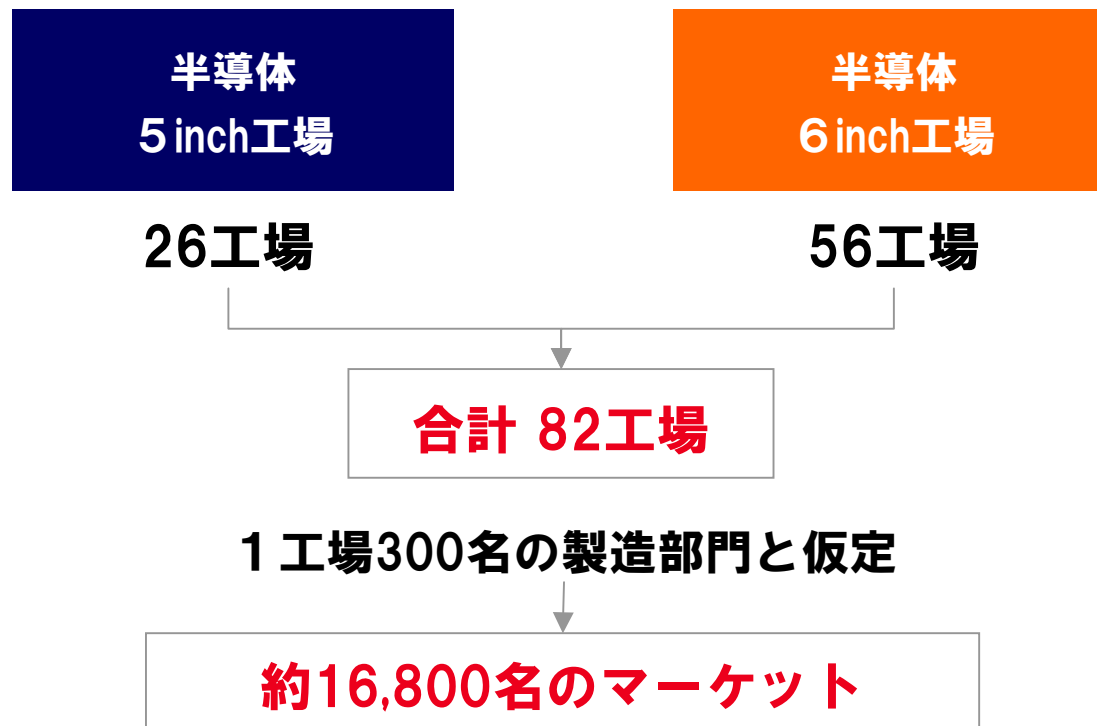


※製品分野の市場成長率  
 富士キメラ総研資料より

③ 工場の一括請負【インハウスソリューション】

■ ターゲット市場

半導体メーカーは、より大口径なウェハサイズ（8inch/12inch）に経営資源を集中しており、小口径な旧ラインについては、コスト構造上の問題を抱えている。



※工場数値  
半導体産業新聞資料より

**④ 海外移設・技術サービスの拡充【アセットライトソリューション】**
**■ 工場・生産ラインの統廃合の動き**

企業名	分野	内容
富士通マイクロエレクトロニクス	半導体	小口径ラインの再編
ルネサステクノロジ	半導体	小口径ラインの集約
NECエレクトロニクス	半導体	小口径ラインの再編
東芝	半導体	小口径ラインの閉鎖・縮小
シャープ	液晶	亀山工場の生産設備の一部移転
NEC液晶テクノロジー	液晶	鹿児島工場を秋田工場に集約
日立プラズマディスプレイ	プラズマ	宮崎事業所の製造ラインを売却

**半導体・FPD業界の再編に伴い、中大型の工場閉鎖案件が増加しており、数百億円のマーケットが存在する。**

**エルピーダの実績と海外に広がるエンジニアネットワークの強みを活かして、海外移設・技術サービスの案件獲得の精度を高め、受注に結びつける。**

Growth 2012

新中期経営計画(2010年3月期～2012年3月期)

Section 3

# コミットメント

**EPS成長率 30%以上**  
**配当性向 30%以上**

**【補足説明】**

• **EPS成長率**

1株当たりの成長性を測る指標。 今期EPS/前期EPSで求める。

EPSは、1株に対して当期利益（税引後当期利益）がいくらあるかを表す。  
式)「EPS = 当期利益（税引後当期利益） ÷ 発行済み株式数」

• **配当性向**

配当の原資となる税引後当期利益に対する配当金の比率を表す。

# Technology & Teamwork

**この配付資料に記載されている業績目標等は、いずれも当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績はこの配付資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。**